

軽米町百人委員会第2回はつつ子育て部会議事録

○開催日時：平成29年10月13日（金）午後6時30分～

○開催場所：軽米町役場庁舎3階会議室

○出席者

委員：20名中13名出席

事務局：健康福祉課 於本、坂下、日向、加藤

教育委員会事務局 工藤

総務課 梅木、菅原

○開会

○部会長挨拶

（会長）みなさんこんばんは。お忙しい中参加していただきまして、ありがとうございます。第1回目の時は皆さんのそれぞれの立場からたくさんの意見をいただきました。また、今回2回目ということでテーマも新たになりますけれども、たくさんの意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

○副部会長挨拶

（副部会長）実は昨日部会長さんと私とでちょっと話し合いました。最もこの会が盛り上がる良い効果を出す為に二人でやれる形はどうしたらいいのだろうと話し合いをしました。私が司会進行の方を受け持って、会長さんにご意見番と言いますか、そして、大事な場面ではちょっとまとめてもらう係というような形でやってみようかという事になりましたので、そのようにさせて頂きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○議事

（副部会長）では、2の議事の方に入ってまいりたいと思います。(1) テーマ「町ぐるみの子育て支援体制の構築」について、テーマ設定の説明と町の子育て支援施策についてこれは役場担当の方からお願いします。

（健康福祉課担当主幹）今回の百人委員会のテーマについてちょっと説明したいと思います。前回の百人委員会では、委員の皆様からテーマを決めるところからお話をしていたのですが、今回は町の方でこういうテーマで行きたいということを定めまして、皆さんの意見を聞くという形にしております。それで、今回子育て部会の方では、「町ぐるみの子育てと支援体制の構築」というテーマで皆さんから意見を聞くということにしております。テーマ設定の背景なんですけれども、子育てについては町ではいろんな施策をやっているわけなんですけれども、それだけでは本当に子育ては良いのかというところもありまして、町でやっている施策の他に地域とかでできる子育て支援はないのかということをお皆さんで考えて頂きたいということで設けております。町の施策の他に、補完的な部分と、あとは世代間交流をするようなそういった施策もやっていけばいいのではないかと、さまざまな意見を出していただければそれらをまとめて、来年の提言に向けていきたいと思っています。今回は、町ではこういうことをやっているんだよということをこの後担当の方から説明してもらいますけれども、そ

の他に皆さんというか地域でできる子育ては何かないかなというところと、町の施策の補完的なところで何かやれるかというところでお話ししていただければという風に思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。皆さんに配布しているこの子育てハンドブックというのは、前回の百人委員会の中でもこういうのがあればいいなということで作成に至ったものでありますので、皆さんの声が反映されたといえれば反映されたものになっております。今回も町でやれる分や地域でやれる分、いろんな意見があると思いますが、そういった意見の中でまた何かやっていければいいのかなというところがありますので、まず今回はこれを使って町の施策について若干ではありますが説明させていただきます。

(事務局) ~ガイドブックの説明~

(副部会長) ありがとうございます。ということで、役場の担当者の方からはテーマ「町ぐるみの子育て支援体制の構築」というような紹介がされました。そして、軽米町ではこのような支援事業を行っているというのを具体的にお話ししていただきました。そして皆さんの今日のための案内状の方には、この「町ぐるみの子育て支援体制の構築」についての提案と課題として分かりやすい表現で「こんなことをやれるといいね。その為にはこんなことが課題だね。という事を皆さんから考えて頂き話し合いたいと思います。」というように書いてもらっていますので、こういう表現をしていただくと皆様も喋りやすいのではないかなと思います。それでは、この前も一巡してフリーの形で喋っていただいたら、どんどん凄いいヒントになるようなことが次から次へと出てきた記憶もありますので、さっき言ったようにこんなことをやれるといいね。その為にはこんなことが課題だね。といったイメージで結構ですので、一通りフリーな形で、ご意見が程よく出てくると思いますのでこのままいきたいと思います。

(委員 13) 質問でもいいですか。すみません。この子育てガイドブックは昨年度のはつらつ子育て部会の中で出された事を受けてのこれを作成したという事での理解でよろしいですか。前からあったのではなくて、昨年度の部会話し合いを受けてこれができたということですか。

(健康福祉課担当主幹) 作ろうとしていたところと重なったかもしれないけども、そういう意見が出されたのが後押しになったかもしれないです。

(委員 13) 基本はできていた。

(総務課担当主幹) 町の方で様々な子育て支援政策があったんですが、部署によっては分からないのがありましたので、それでは1冊にまとめて配布しましょうということで昨年度作成しました。皆さんのご意見をまとめてですね、分かりやすいような形で出してほしいということでありましたので。

(委員 13) はい、分かりました。ありがとうございます。

(委員 8) 今は小さい子どもがいるわけではないので、実際にこういう支援があったらいいなというというのは今ちょっと分からないんですけど、実際に給食費の助成とか受けているんですけども、そこは凄く助かっているのでもいいなと思っています。それくらいです。

(委員 2) 私は考えたんですけど、ぱっと思い浮かぶものがあまりなかったんですが、地域世代交流という言葉が出たんですけども、おじいちゃんおばあちゃんと交流できる場があればいいなとは思ったりします。そういう学校でその学年がやったりということはあるみたいなんですけど、なかなか地域で開催されるものに子ども達が進んで参

加するということがないので、そういうところができたら、そういうところを開いたり支援したりしたらいいのかなと思います。

(委員 11) 私も今回のテーマで、今小さい子どもが年長と年少がいるんですけど、幼稚園に行っていて、幼稚園は時間時間で行って帰ってきて、ピヨピヨ教室等にまだ行ったりするんですけど、ピヨピヨにも意外と子どもたちが来ていなくて、せっかく行っても同じくらいの子とか利用者が少ないので、結局家にいる延長上でそのまま行っているという形になってしまうので、もっとそういうピヨピヨ広場だったり、そういうものも活用方法が広まれば。小さい子だけとなっちゃうので、もしかすると行きづらいのかもしれないですけど、もう少し活用できれば同じくらいの子どもを持つ、幼稚園の子、知らない父兄同士でも情報交換したりとか、親同士も交流ができる場なのでちょっともったいないなと思ったりもしています。

(委員 12) うちの、主人も私も岩手県の出身ではないので、子どもを預ける所はどこにもなかったんですけど、年少年中のときに子どもを預ける場所がないので、上の子の行事に全部 2 つ下の妹を連れて行かなければならない状態で。そうすると下の子が具合が悪いと行事自体を休ませなきゃいけなくて。結果的に主人が休んでくれてそうはならなかったんですけど、そういう状態で子育てをしてきたので、幼稚園や保育園以外に、まだ入っていない子たちが一時的に預けられる場所があると助かるなと思って、今まで子育てをしてきました。私みたいにそういうものが必要な人は少ないのかもしれないですけど。例えば、お嫁さんとして軽米の町に来ていて、やっぱりお姑さんに預けにくい人とかいると思うので、そういう場所があると助かるかなと思いました。

(委員 3) 私は 1 番上が高校 3 年生で 1 番下が年長なんですけれども、お兄ちゃんの時 1 回医療費がですね、小学生までだったかで終わりだった時があったんですよ。それで中学校高校まで延長されて、中学校高校で部活動で怪我をして医療費がかさんだ時があったので、医療費が戻ってきてくれる事に対してとても凄く感謝しています。あと、高校の給食費の方もありがたく思っています。

(委員 5) 今日初めてこのガイドブックを見させていただいて、全戸配布というような説明があったのですが、いつ頃になるのかなと。今日初めて内容を見たので、こんなにたくさんの子育て支援があるんだと思って。もう家に届いているんですね。私が小さい子どもを育てている時にはないものもあったので、素晴らしいなというふうに思っています。私みたいに見ていない人もいるかもしれないし、見ても子育て終わったからいいやって見ない人もいるかもしれないので、もっともっとかるまいテレビを利用したりとか、コマーシャルを、簡単に、良いことやっているんだよという発信の仕方をどこかですることができる場所があったらいいなというふうに思っています。子育てだけではないですが、軽米にはたくさんいいところがあるのに、知らないで終わっちゃったとか、そんなに良いんだったら行きたいなと思って人がたくさんいるかもしれないので。あそこに行ったら、あの人に聞いたらっていう、そういう誰でも分かるような窓口みたいな。例えば、役場の一階のところは何でも相談して下さいみたいな窓口でもあったら、もっとこういう活用ができるのではないかなというふうに思います。

(委員 6) まず 1 つは医療費の助成のことなんですけども、保育園の 5 歳、6 歳未満が会計の時はそのまま会計が終わるのに、小学校に上がったからは用紙が必要でしたよね。用紙を出して 1 回会計をしてから、後から振り込みでしたよね。1 回会計をして、申請用紙とともに 1 回医療機関に出してから入ってくるという流れだったと思うんです

けれど、それを幼稚園、保育園児と同じような会計方法がやりやすいかなと、行きやすいかなと思います。

(委員4) こうやって見ると確かに広い、手厚い保障というか手厚い支援が軽米町はいっぱいあるんだと思うのですが、やっぱり子どもが少ないから、だんだんこういうのも少ないからできるのか。ありがたい支援がいっぱいあるのでもっと町外の人にアピールして、軽米に人口を増やせるようなアピールとかできたらいいんじゃないかなと。軽米に住んでみて、実は便利な田舎っていうか高速もあるし、病院もちょっと遠いけど、行けなくはない距離にあるから、凄い田舎なのに便利っていうのは私が住んでいて思うんですよね。そういうのもちょっとアピールしてこうやって良い支援がいっぱいあるので、人が少ないと何も動かないってやっぱり思うんですよ。少ないからできない。少ないからちょっと。という風にどうしてもなっていくので、学校も少ないからなとか、少ないからできないんだよとかなくなっていくのは子どもたちもかわいそう。軽米町良いよって子育てにも良いよって言えるような。環境もまず、不便だけど暮らせないってこともないというか、意外と大丈夫かなというところもあるので、そういうのもできたらいいと思うのと、今、お兄ちゃんが幼稚園に入っているんですけど、幼稚園はもう人数が少なくて、子どもが少ないからしょうがないんですけど、だからどこか一緒にして、幼稚園と保育園のいいところを一緒にして一個にまとめたら、職員の解消やら、いろんなことがもっとできるのではないかなと思うんですよね。いいとこどりを一個にしちゃって。本当人数が少なすぎてもったいないというか、少ないから手厚いのも勿論あるんですけど、今考える時なんじゃないかなと私は思いました。20数人しかいない幼稚園がもし民間であったら、経営難で閉めます。というふうにもこの間も新聞に載っていて、そこも考える時なのかなと思いました。

(委員7) 外から来た人に情報がやっぱり少なく届いてしまうというのが現状だと思います。回りの声を聞いても、お父さんは軽米の人なんだけどお母さんが外の人だと、お父さんが情報を与えないとそういうものがあると分からないでずっと過ごしてきて子育て終わってから初めて知ったよという人も結構いるので、そこら辺の情報がもうちょっとあってもいいのかなと。あとは、スポーツを教えているんですけど、スポーツ少年団の育成で充実を図りますという、かかる度合がどこまでなのかも少し知りたいとは思っています。

(委員10) 私はもう子育てはずっと昔で、うちの子たちも高校が給食になって凄いなと。何もかもと言えばおかしいけど、手厚いなと思います。今、さっき言った幼稚園保育所というか、子どもさんが少ないから一緒に、そういうふうにした方がいいのかなと思います。子どもさん、幼稚園なんか少ないみたいですね。一学年何人だよって聞いたとき、えーって思ったから。今働く人が多いから、保育所の方が多いでしょうけど、子どもさんのためにやる方法というか、あればいいのかなと私はそう思いました。

(部会長) 私はあの、どうしたらいいのかなと思って、自分の子育ての時どうだったかなと思った時に、私もやっぱりよそから来てる人間なので、やっぱり上の子と下の子が離れているものですから、上の子が例えば幼稚園に行くってなったら、下の子はおんぶして物事しなければいけなかった。だから結局は主人に休んでもらって見てもらって、自分が行くっていう方法しかなかったんですよね。どうしてもここには、一時預かりみたいなのがあればいいなって。幼稚園保育所に行く前の子どもの一時預かりっ

ていうのは、この町にはないんだなというのをずっと思っていましたし、研修でもなんでも学校でこういう研修がありますよっていう時に、行って聞きたいなと思っても、やっぱり下の子をおんぶしていると行けないんですよね。どうしても行けない。だから、そういう公演の時、託児みたいなものがありますよって言うてくれれば、行っても預けて聞けるなというのがあります。今はそういうのはどうなんですかね。託児とかって必ず設けているのでしょうか。何か公演ある時とか、子どもさんを預かりますよっていう。朗読会は預かるようにはしていますけど、他の。

(健康福祉課担当主幹) そうですね、ピヨピヨ教室とかでイベントやる時には更女の会とかに託児をお願いして、託児をするから安心してきてくださいというようなアナウンスをして託児をお願いしているケースはあるし、今日の会議でも子どもを預ける所がないということで、託児をしてこの会に出席してもらっていました。会議とか研修会の為にそういうのがあるかっていけば把握はしていないんですけれども、全部が全部やっているとは思われません。

(部会長) 私たちの時には一切なかった。仕事を休んでもらって行ってもらうか、こっちが行くかしか。それでなかったら子どもも行かないよっていう感じしかなかったんですよね。

(副部会長) はい。ありがとうございます。たくさん出していただきましたけれども、この中には町役場の担当者の方から、イメージがあるかもしれないという案件がありましたので、ちょっとそれを確認したいと思えますけれども、保育園幼稚園の医療費は最初から払わなくてもいい体制になっているんですよね。小学生以上は償還払いって一回払って後から振り込まれるという形になっているのを小学生も最初から払わないようになってくれればとってもありがたいという意見でしたけれども、それに対して町の方からは。

(健康福祉課長) 医療費の件はですね、そういった立て替えて後払いでなくて、窓口で現物給付で終われるようにと、そういった要望があちこちあって、県の方でも改善されたと聞いております。担当が町民生活課なので、後で聞いておきます。町内、町外、県外の関係もありますしね。

(副部会長) スポーツ少年団の育成について町ではどの辺までをイメージして取り組んだらいいのかという質問が出ましたが。管轄以外の方ばかりかもしれないんですがこんなことあるよっていうのを聞いたことがあるという方がいれば。

(教育委員会次長補佐) 次回の回答としてお願いします。

(副部会長) あとは皆さんの方から一回りしただけで、いろいろな提言として使えるようなものが出ましたので。ちょっと確認してみますと、世代交流、学校では盛んにやっているけれども、それを地域の中で表現できないかという良い意見が聞かれたと思います。それからピヨピヨ広場について同じ年の方が少なくてちょっと不完全燃焼感があるという感想がありました。それから、複数の方から意見が出たのですけれども、町長の言葉の中に「日本一の子育て支援を目指す」とあるように、確かに軽米は良い制度がありますので、それを知らないでいる場合も多いと。よそから軽米に入ってきた奥さんたちは意外と知らないとか、逆にこれをせっかく良い武器があるのだから町外に宣伝して人を取り込めばいいんじゃないとか。これはとてもポジティブないいものがあるからそれを消化すればいいという意見が複数出たと思いますので、これもホームページとかいろんな活動の方法はあるのではないかと思います。それから幼稚

園保育園について、幼稚園の数が少なくなってきていてこれも不完全燃焼系で、むしろ幼稚園保育園を一緒にして人数を多くして良いものを出していける方法があるのではないかなという意見も出されています。それから、幼稚園保育園に行く前の一時預かりの場が軽米にないような気がするということが、これも複数の方から出されたと思うのですが。例えば、以前皆さんが嫁ぐ前の町とか他の町ではこういうのがありましたよというのがあったら、ちょっと紹介してもらったりしてもいいのかなと思いますが、いかがですか。

(委員 12) 私が軽米に来る前は北上にいたんですけど、北上では保育所の中で一時預かりがありました。書類を書いたり手続きをしないといけないんですけど。私は妊婦健診で上の子を連れて行けなかった時とかは、保育所に預けて行ったりしたんですけど。民間の託児所がいくつかあったので、そういうところに1時間くらいという形で預けたり、子育てサポーター制度というものがあって、研修を受けた方がお家で預かってみるという制度が市の制度としてあったんですね。そういうものも北上市ではありませんでした。

(委員 4) 私は以前大船渡市にいたんですけども、大船渡でも保育園で一時預かりというものもあったので自分が病院に行きたいとか、自分の私用でもそういうものが使えたので、1時間千円だったかな？ありましたし、病児保育、病後児保育というものもあって1時間千円くらいでちゃんと給食もついて見てくれたので、働いている人や、おじいちゃんおばあちゃんが居ない世帯には凄く助かるものだったので、そういうものがどこにでもあるものだと思って来ちゃうと、ないんだ。ここにはなぜないの。というふうに思いましたね。どこにでもあるのに何でここではやらないんだろうっていうのは来て思いました。結構いろんな市町村であるんですけど、一時預かりくらいはやってもいいのではないかなって。どうしても1~2時間見てくれる人がいないから、保育園だったら安心して預けられるんだけどとかがあるので、もしかしたらそういうのが1個あるとまた便利になっていくんじゃないかなと思います。

(事務局) 町でもそのようなご意見を時々聞きますし、絶対そういうのがあった方が、よそから来ておじいちゃんおばあちゃんのいない方がきっと助かるんだろうなと思って、実現したいなと思ひまして。去年近隣の二戸市さんが市でやっている所に見学に行ったり、どういう流れでやっているかや、金額の方とかお話を聞きに行ったりして検討はしておりました。本当は今年度始めたいと思ひていたんですけども、保育士の確保がなかなかできなくて、今現在やっている保育園で空き要員のところで受け入れよう。受け入れたいなと施設長を含め話してはいたんですけど、現状の保育園を運営するだけで精一杯となっていました。人材確保が難しくてですね、実現に至っていないところがございまして。保育士さんを確保できればすぐにでもやりたい気持ちはあります。

(健康福祉課長) 要するには、定員をオーバーしないわけですが、定員で若干余裕がある分、その分であれば一時預かりが可能だろうということで、九戸村さんなんかもね、そういうのをやっているし、二戸市さんはもちろんなんだけれども。検討したんですけどやっぱり人の関係で、人数を確保できないで無理だったんです。あと、病後児の方は以前に検討した経緯があったようでございまして、軽米病院さんに申し出た経緯があったようなんですが、やっぱり軽米病院の方では対応できないということで。で、ピヨピヨというか交流駅の関係でもですね、保健師さんとか児童支援員とかですね、

保育士さんを入れながら一時預かりとか病後児とかですね、何とかならないかと検討した経緯がございましたけれども、やはり、入り口を別にしろとかですね、果たしてどれぐらい需要があるかということで、今のところはピヨピヨ広場を動かすような格好で進んでいると。最近の情報だと、今選挙中なのでございますが、幼児保育の経費の無償化という方向等が持ち出されておりますので、まだ制度改正、法律改正にはなっていないわけなんですけれども、そういうふうになると果たして子どもさんたちが保育園に入ってくるのが無料となってくる。保育料が0円になるよというのであれば保育園の方にいっぱいくるのかですね、幼稚園の方にもいけるのか、保育園は働いている方の子どもがまず前提にありますし、幼稚園は就学前の教育という関係もあると思うんですけれども、そのような感じで検討もしています。調査もしております。

(副部会長) 幼稚園保育園の一元化。

(健康福祉課長) 一元化までは…。果たして今4箇所あるわけですよ。笹渡の保育園で13名。3歳からの子どもさんで13名いるのですが、果たして1本になって皆さんがOKとなれば、それはそういった検討はなされて進められると思いますが。私の感覚としてはそこまではいけない、やっぱり近い所で預かってもらいたいというのが大勢なんじゃないかなと私は感じております。保健師の方は何かないですか。

(保健師長) 病後児というのは必要だと強く感じているところです。今までの経過というものがあったというのを聞いて、軽米病院さんに打診をしたという経過があったようですけれども。私も軽米病院さんに頼めればいいのかと自分では思っていたので、でもそれを打診して駄目だったんだなというのが今分かって。

(健康福祉課長) どんな良い方法があるか。諦めてはいないんですけれども、もっと良い方法があるかもしれません。まず、検討していくということで。

(委員4) 前いた所でやっていた所は、保育園の隣で小さい小屋じゃないんですけれど同じ敷地内に病後児用の施設があって、そこで小学校3年生までは市内の子であれば保育園じゃなくても使えたっていう便利なものだったんですよ。病院行って軽く診断書みたいなものを書いてもらって利用できたので。そういうものもやっていました。

(副部会長) 例えば小3というのは、義務教育となっているけれど、学校の教室まで入れないから別でという感じですね。

(委員4) まだ熱咳が出ていて、小学校3年生であれば市内ではその保育園を使っているなくても。そういう感じでやっていました。

(副部会長) なかなか家庭の中では安静にしていられない環境があるために預かってもらいたいということですね。そして、軽米町では軽米病院辺りに相談してみたけれどもなかなか難しいということなんですね。保育園の一元化は考えないとしても幼稚園と保育園の合体というような話はまだないでしょうか。軽米は。

(委員5) 幼保一元の取り組みはまだ進んでいません。先程健康福祉課長さんが言ったように保育園っていうのは働きながら保育に欠ける人が預ける制度のもとでやっているし、幼稚園というのは文科省の教育というような部分で設置されているものなので、そこをいきなり一つにするというのは、そこは出来ない。

(健康福祉課長) 認定こども園とって、保育園と幼稚園と一緒になったようなものはあるのですが、今のところは、軽米保育園と軽米幼稚園は場所も近いわけなんですけれども、そのような提案なり声は出ていないですね。

(副部会長) 認定子ども園はどういう仕組みであるかちょっと紹介してもらってもいいで

すか。

(委員 13) 幼稚園と保育園が一緒ということなんですよ。取り組みの中では認定こども園はいろんなパターンがあって、最初は、保育園の先生と幼稚園の先生と分かれていて、早く幼稚園の子たちは帰る、保育園の子たちは残るだったんですが、今はもうフリーになったところが多いみたいで、幼稚園の方でも遅くまでみたりとか、資格を取るのも昔ほど、保育園か幼稚園か持っていれば、ある程度の研修を受ければ取れるみたいなどころもあるみたいで。昔は保育園幼稚園は全く違う、だったんですね。今はやわらかくなったかなという感じがします。10年ぐらい前に幼保一元化が持ち上がったんですよ。私が幼稚園にはじめ入ったとき 120 名だったんですよ。2 学級ずつで。保育園の方が少なく 50 人かそれくらい。それが逆転してしまって。保育園の方に行った時は保育園の方が 100 人超えていて、幼稚園が凄く少ないので、いや、これはもう一緒になったら保育士さん、幼稚園の先生もほんとね。私たちの頃は、幼稚園の先生保育園の先生は全く別で、幼稚園は幼稚園、保育園は保育園っていう感じだったんですが、私のあたりから両方くれる短大だったり専門学校が出てきて、私のあたりから若い人たちは両方持ってきているから、異動が可能になったんですよ。だから、それ考えると、今の方たちもどっちも持っている。資格をどっちも持っている人も多いから、どんどん交流できているわけなんですけど、一時そういう話が持ち上がった時に、やっぱり上の管轄が違う。そこでね、かたや幼稚園は子どものための施設。かたや保育園はお母さん方中心のための要望を受け入れて見る所。その辺の違いが凄く多くて、私はこっちの給食作っている方は 3 歳児以下が生活して独自の給食食べればいいし、そっちの幼稚園の方に 4、5 歳が行って学校給食と同じような給食でもいいんじゃないかって勝手に考えてね、一生懸命言ったんですよ。そうすると先生も上手くいくし、一時預かりもできるし、いろんなメリットもあるのかなって考えたんですよ。10 年前はかなり言っていたけども、なんだがそこから上が違うっていうことになってさっぱり進まなくなってる。

(副部会長) 同じような県北のへき地といいますか、地域でやっているところもあるでしょうか。認定こども園。

(委員 13) 九戸が今やっています。

(委員 4) 5 人の子ども達を 1 人の保育士さんが見ていて、その人たちと保育園に行ったら、一人確保できるじゃんとかって。凄いいないないとか、結局保育園の先生も幼稚園の先生も転勤では全部回るので幼稚園も保育園も子どもたちにベストな形を取った方がいいんじゃないかって。もう十何人しかいないのに。結局幼稚園でも預かりをやるので 6 時まで預かってもらえるんだけど結局子どもが 1 人しかいなかったりすると子どもも預かりは嫌だっていうふうになっちゃうし。あまり良い面が、良いサービスをやってくれているけど、それはうまくないないなど。やっぱり子どもは子どもがいなくて預かりにやりたくないし、もったいない。

(委員 13) 私はね、できないわけではないと思います。だって軽米町の施設だから。どっちも。そこがね、私立ですよ。私立だと土台が一緒になるのも目標がそれぞれだから、無理ってなればだけ。同じ軽米町の子どもたちを育てるのだから。そこをうまくやればやれるかなって思いますけど。

(副部会長) そうすれば、病後児保育も一時預かりにも余裕ができてくる。

(委員 4) 保育園多いっていうけど、もっと多いとこってもっとあるよって思うから。で

も職員がいなくてなると言えないんですけど

(副部長) じゃあその辺はこれからのお楽しみということで。その辺も何かね、最終バージョンまで続く議論になるかもしれないですけど。あとは男性の方からスポ少の事について、町はどこまでイメージしているのかとあったのですが、個人的な希望で結構ですので、どういう風な夢とかイメージがあったら聞かせて欲しいと思います。

(委員7) とりあえずは人がいないんだけど部活が多い。あと要は人がいないから部活にならないから他の高校に行っちゃう。他の中学校行っちゃうっていうのが。今、もう軽米の野球部は10人いなくなる。

(副部長) 軽米中ですか。

(委員7) 高校が。一人怪我をしたら試合ができない。ま、人がいないからどうにもならないんですけど。

(委員13) やっぱり今出たあたりが大切なところなんですよ。もっと入る子はいるの。軽米高校は。でもよそに行くっていう。そこがね、私たちもいやーどうにか軽米高校を存続存続と思って一生懸命やっぱり町に、やっぱり県立高校があるっていうのは凄くね、ありがたい事。まずお金がかからなかったんで子どもたちを入れるのにもね軽米高校だと。だからね、将来こういう方向にやりたいっていうと、先生方も一生懸命なんです。軽米高校がなくなったら困るなあとってどこでも高校生たちはそうなんです。伊保内だって存続させたいし、軽米だって存続させたい。あちこちの小さい高校はみんなそう思っているから、ほんとに子育てだから高校ぐらいまでの子どもたちを考えると、どうして他にやっちゃうのか、行っちゃうのかなとそこは凄く私も考えています。

(委員7) ここで見ましたけれども、将来ここにいません。というのが、この支援がどこまであれなのかなと。

(副部長) 会長さん何かありませんか。

(部長) 何かの魅力。魅力が一つでも。

(副部長) 要はこれで見れば、育てるまでは凄い支援はあるんですけど、育った時にじゃあ軽米にいますかってなれば。

(部長) いれないですよ。やっぱり仕事がないといれないですよ。仕事でも臨時で使われてもやっぱり、臨時では生活できないので、やっぱり大きいところに行って仕事をしてくるっていう感じですよ。そうなるんですよ。

(委員7) そこまで補助してくれて、じゃあもっとそこを、メリットが欲しいかな。

(委員4) タダだけじゃなくて、お金出してもやりたい人はいくらでもいるから、タダだからOKとかじゃないと思って。保育料も確かにありがたいですけど、もうちょっとお金を払ったらこういう教育させてくれるとか。葛巻町だとバイオリンを習うよとか。なんかそういうのとかあれば凄いいんだけど、タダって、タダだからありがたいけど、だから何もやらないよとかだと困るな一と。魅力がないっていうか。タダだけ。という感じだから。お金を払ってでもやりたい人は遠くに行っちゃう。でも魅力があるからたぶん他の高校に行っちゃう。

(部長) だと思います。自分のやりたいものがあるからよそに行きたい。

(委員4) 人数少ないのもあると思うんですけど、あとは聞いていると、ずっと幼稚園、小学校、中学校ってずっと軽米にいたから出してやりたいってお母さんお父さんが居るんですよ。というのが結構聞かれます。自分もずっとここにいて親は嫌ではないけ

ど、でも結局帰ってくるかもしれないですけど。一回は楽しい所に出してやりたいと
かっていう気持ちもあるみたいで。だから高校を他のところに行かせるお母さんとか
もいますね。ちょっと違うところに出してやりたいなっていう親が結構聞かれます。
ずっとここにいちゃだめだとかって。実は良い所なんですけど。

(委員4) 最近みるのは職場体験っていうのは良い事だと思う。

(副部長) 軽米高校については町としてもバスの通学費、金田一とか二戸辺りから無料
で、いろいろ努力はしているようなんですけども。私も常々感じるのが、よく晴山
中学校の子ども達が福高に行くからどうしようもないとか言われて、私 PTA 会長もし
ていて頭が上がらないんですけども。でも子どもたちの気持ち。私も子どもに何回
何回も軽米高校に行ってくれと。軽米中学校の職員室に行っうちの娘を洗脳してく
れと。軽米高校に行くように。子どもは福岡高校に行きたいと行っちゃったんですけ
ども、晴山の子どもたちをなんとか阻止して軽米にやるように。軽米高校の魅力を何
かつくって軽米捨てがたいって。しかも地元だからというような作戦を立てなければ
いけないのかなって。私は個人的には昔ミュージックメイッツっていう楽団があっ
てですね、結構レベルの高い。それを、復活させたいって言っているから。軽高はそれを
依頼しているのね。軽高ラブバンドにして、このバンドは軽米高校を応援するバンド
なんだというようにして、軽米高校の現役のブラスバンド部員と時々ジョイントして、
そういうふうな魅力を作って、大人の人達も愛して守ってあげたいと思っているんだ
ったら入ってやろうじゃないのっていうようなですね、そういうアイディアの方に
変換していくべきではないかなと思ったりしています。ただ、福岡高校の校長はや
っぱり子どもたちのことを思っているんですけど、もう集約して全部福岡に
来なさいと。そして競争し合っ切磋琢磨して、それが大人になってから生き抜く力に
なるからって言っている。それもとっても良く分かるんですが、軽中の校長先生
辺りには言わせると、笹渡の子たちが福岡に通うのは厳しい、辛いと思うよって。
そういう点で考えればやっぱり軽米高校の価値っていうのがあるのかな。

(委員3) 今高1の娘が福高に行きたいって言ったんですけど。体験入学に連れて行
ったときに、だいたい一時間はかからないんですけど、40~50分だったんですけども、
これ毎日通うのはきついし、冬場もきついんじゃないって。で、下宿している子も
いるんですけども、下宿も結構かかるんですよ。だったら地元にあるから地元
にしてくれないかなって言いました。確かに部活はバレーやっているんですけど、
人数が居ないから伊保内とやっているんですけども、中学校までは敵同士だ
ったんですけど九戸さんとか。今はコミュニケーションもとれてやっています。
いろいろ大変なところもあると思いますけども。今三番目が中三年で
すけども、半分ぐらいではないのかなって言っていました。軽高校行くのが。
軽高もいい高校だから。うち年長の子がいるんですけど、年長の子が入る
まであるのかなって思うところもあります。

(委員13) 去年までは入りたい子を軽高に体験入学みたいなのに入れた
んだけど、今年からはとにかく軽米中の子どもたちは全員来てっ
て感じで、全員来て見てっ。そうすると先生が言うのではなくて、
子ども同士で、先輩後輩で、「いいよーとか、こんなところがいいよー」
って言った方が、子どもたちは、はあーと思うかな。大人が言うより。

(委員3) 子どもが「軽高えー。」という子がいるんですけどやっぱり。

(委員4) 名前ですけどね、きっと。なんか暗いみたいな。結構ネームバリュー
が下がってるかなっていう感じが。

(委員5) 私二人子どもいて、一人は福岡で下の子は軽米で両方の経験をしましたが、今副会長さんが言ったように福岡高校は切磋琢磨していて、軽米高校の良さは、下の子を入れて本当に暗くはないです。本当に良かったなと思うのは、進学をしようと思っているのですが手厚い。進学に。一人の子どもに一人の先生がついていて下さって、本当にその子のために希望する大学に行けるようにちゃんと二年生の後半からしっかり担任の先生も含めて、進路に関しては担任関係なく一人の先生が一人の子について進路を考えて下さる。でも福岡高校は勝手にやりなさいと。なので、その子その子に合ったやり方があると思うけど、手厚いことによって本当に行きたいところにもしかしたら推薦でもなんでもいいから、その枠がありますよね。福岡から一人、軽米から一人っていう枠がある。人数が少ないからこそ推薦にしてもらえる枠があるので、福岡に行って大学に入った上の子は、軽米に行ったらもしかしたら希望のところに行けたのかなっていうふうに、ちょっと時々話をすることがあるので。本当に軽米高校は進路進学に対しては、本当に手厚いなと思って言うのですが、何せ今私初めて言いましたので、それを多分先生たちっていうか、ここには今聞いてくれる方がいるけれども、知らない人は軽米高校は暗いんだなっていうイメージで、もしかしたら終わっているかもしれない。

(委員3) いいとこたくさんありますよね。軽高にもいいとこたくさんあるんです。

(委員10) うちの子どもは今それこそ40になるんですけど、やっぱりうちの子たちが高校の頃は一生懸命進学のコースというか、行きたい人たちの合宿があったり、一生懸命夕方先生たちが勉強を教えてくれる。だから別の方へ行った子が、軽米に入れば良かったなって言った子もあつたんです。そっちはそっちで、一生懸命競争で、自分で勉強しなきゃ。どっちも自分で勉強するんですけど、先生が一生懸命合宿してまでやってくれたつたんですね。

(副会長) スポ少の辺りから一気に軽高の話にいっちゃいましたけれども。やっぱり15歳から18歳の町の子どもたちが町の外の方向に行っちゃうのか、地元に入れるのかっていうのは、私たちの部会としても知らないふりはできない分野ではありますけれども、私もちょっと司会の立場を忘れて持論を言ってしまうかもしれませんが。今日はこれくらいでやめて。もしかしたら軽米高校に対する思い、希望みたいなものが提言の中に入っていくのもあつたかもしれませぬ。あと大変良い意見だと思ったのが、世代交流の場が学校単位ではどこも熱心にやっているけれども、地域としてそれが無いのではないかとということで、そういうのがあればいいんじゃないかということもあります。前回の時も新しいホールですか、そういうところにそういうコーナーをとることがちょっと出たと思いますが。古舘さん、イメージとしては軽米にこんな感じなものがあったらとてもいいなという夢みたいなものはありますか。

(委員2) 地域の交流場所、公民館とかそういうところに子ども達が行く機会が、育成会の行事でしかない。そこを子ども達が楽しいというか、こういう行事がいっぱいあるんだっていうところを知ってもらうところから始めなきゃいけないのかなっていうふうに思います。いきなり子ども達と交流しましょうって言われても、ひ孫とかがいる人だったら行こうって言われたら行くかもしれないけど、うちのひいばあちゃんもですけど、まだ畑仕事で忙しいとか、そっち優先になってしまうので、今の状態では難しいのかなと。まだ畑仕事が忙しいっていうくらいなので。体操をやっていますよって言ってもそんなに歳をとってないとかそういう感じなので、土台作りが必要なのか

などと思います。

(副会長) よく聞こえてくるのが、結構子ども達が行く場所がなく誰かの家に集まってそこで過ごしている。そして親御さんが、子どもが行くところがないから我が家が犠牲になっていつも集まってきています。ということを知ると、本当になんだろうかとか、遊びやすい公園とか軽米にはあまり良いのがないのかなど思ったりすることがありますが、皆さんはこのことに関して何か。こういうイメージだといいなというのがあったら。

(委員6) 外でも遊べて中でも遊べるような施設がどこかにあればいいのかなど。小学生くらいまでであれば、例えば施設の植物公園にある子ども館。ああいう感じのものがあって更に公園があるというイメージの施設があると行きやすい、いいのかなど。ただ場所ですね。連れて行くにしても。子ども達だけで行くにしろ。行きやすい距離。

(副会長) 植物公園にそのような屋内の施設があるんですか。子ども達が遊びやすい所。

(委員6) あります。子どもの国。

(委員11) 月曜日が休館です。遊園地の方は冬シーズンは閉園なんですけど、そこは通年通して利用できるの。雨が降っていても雪が降っていても、家で冬休みとかに連れて行ったりとかします。

(副会長) 最近できたのですか。

(委員6) いいえ。前です。何年前だろ。久慈では久慈体育館の中にボルダリングの施設というか揃っているの、それを見て子どもはやりたいとか言いますよね。今岩手県からも世界チャンピオンとか出たりするので、ブームに乗ってしまえば。

(副会長) 小学生とかも遊べるんですか。

(委員6) できます。ちゃんとインストラクター付きで。

(副会長) 子どもには子ども用の遊び方を教えてくれる。

(委員2) 交流駅をうまく活用できないかって思います。

(副会長) 私も今交流駅が浮かびました。

(委員2) 公園があるのを考えるとそうなのかなと思います。

(副会長) 子ども用のウェイトをイメージして作って欲しいっていうような。今だったら間に合うかもしれないですよ。

(委員13) 町民説明会があると思いますのでそれに。

(副会長) その時に具体的な提言にしないと、漠然としすぎています。と言われますから、具体的な提言ができればいいですね。イラスト付きで。会長さんいかがですか。聞いてみて。

(部会長) 自分の子が育った時には地域の方に育ててもらった。子ども祭りというものがあまして、小学校か中学校のグラウンドだったと思いますけれど、そこで一年に一回、子ども祭り。どこが主催したのかは分からないですけど、竹馬とか水鉄砲、竹で作った水鉄砲とか竹とんぼとか。私がそういうもので遊んでこないの、もしそういうのがなかったら自分の子どもも竹馬に乗る事もできなかつたろうし、水鉄砲で遊び方も知らなかつたろうし。ふと思ったんですよ。自分の子どもの時どうだったかなって思って、ずっと昔の事なので。やっぱりそういう地域の人に育てられたなっていうのはあります。私は自分の子が子どもの時に竹馬とか水鉄砲とかっていうのでは遊ばないので、そういうのがなかったら子どもに教える事もなかつたろうし、乗れな

かったんだなって。今大きくなってやっぱり小さい時に乗っているから乗れるんですけど、乗れなかったんだらうなって。やっぱり地域の人に育てられて、心待ちにして育ててもらったんだなっていうのはありますね。今そういう地域で何か子どもたちのためにというのはなかなか聞かないですよ。

(委員 13) 子ども会自体が合体しているからね。各町内会で取り組むっていうのは。

(部会長) 子ども祭りっていうのは、軽米の青年…。

(健康福祉課長) 青年団でやっていましたね。ちびっこ祭りだったかな。

(副部会長) 青年団は結構率先役になったんですよ。演芸会やったりね。

(部会長) 昔はそういうのも子どもとたちに教えるっていうのもなかなかできなくて。平成 16 年に子どもの居場所っていうのが出来て、軽米町では三つ会場があって一つは笹渡でもう一つは町の駅って行ってゆきやスーパーの奥の方に作ったんですけど。あとは図書館ということで、でも図書館ではできなくて中央公民館で土曜日と夏休み冬休みだったんですよ。で、子どもの居場所っていうことで夏休み冬休みっていう時には参加者が集まって、子どもチャレンジって言って新聞広げて一分間で「の」の字を何個探すかっていうのを決めて、チャンピオンを決めたりして。そういう子どもたちを春になれば川に行ってお花が咲いているかとか、タンポポで何かを作ったり。夏になれば川にビーチサンダルを持って行ってみんなで入って何がいてって言って、バケツとかそういうので遊んだり。冬には凧を作ってずらっと並んで凧上げしたり、それがだんだんと今は子ども教室になって各学校側だけの遊びっていうものまではいかないんですけど。子どもたちと触れ合って、いろんな昔はできたと思うんですけど。今はそういう全然やり場がないですよ。私、自分のところで共食で地域のお年寄りが集まって一緒にご飯食べたり運動したりするけど、年 5 回あるんですよ。1 回だけ地域のおじいちゃんおばあちゃんたちと一緒に遊んでもらおうと思って子ども会の会長さんの所に行って一緒に新年会やりませんか。5 回のうち 1 回だけだったんですけど。子どもたちに、おじいちゃんおばあちゃんに昔のお手玉のやり方とかかるたとかトランプとか、じゃんけん一つでも昔のやり方と今のやり方が違うので、おじいちゃんおばあちゃんは今の子供達にじゃんけんのやり方を聞いて下さい。そうすると、昔やったおじいちゃんおばあちゃんは今の子供達に昔やったやつを教えてあげてください。とかって教え合ってますけれども、でも軽米町では 16 地区？

(健康福祉課長) 今年は 16 地区。

(部会長) 16 地区でやっているところが、だいたい何回か、その地域でやっているところは子どもたちと世代交流はやっているんですよ。やる場所は。ほとんどのところは会議とかやればやっているみたいですけどね。やっぱり共食もどんどん広げていくそう。やれるようになればいいなと思います。

(副部会長) ありがとうございます。それではあつという間に 20 時で 90 分ということで、だいたい 90 分の目安になるのではないかと思います。今日出た中でちょっとまとめてみると、幼稚園保育園これらのあり方について検討の余地がある。例えば、認定子ども園のように合体させることによって、職員が集約されることで余裕が出来て、病後児保育、一時預かりへの道が広がりやすいのではないかと。その背景にある、保育士不足でにっちもさっちもいかないという現実も踏まえて、幼稚園保育園の辺りの。そして、軽米だったらやれる可能性があるというようなアドバイスもありました。それから、軽米高校に対する私たちの部会からの提言。減っていく以上は仕方がないの

ではないかという時代に合わせて、福岡高校一本でいいのではないかというちょっと諦めのイメージでいくのか。いやいや、きかなくなっても軽米高校は負けない。伊保内にも葛巻にも負けない。葛巻は遠いので、伊保内辺りには負けないぞというような姿勢を町に示すのか。私たちはこういうふうにとまりましたというのを出してもいいのではないかなと思いました。そして3つ目が、子どもたちが遊べる場ですね。個人の家ではなくて町のエリアの中で、外でも遊べて中でも遊べる。そのタイミングとしては新しくできる町民ホールにそういうのを活かしてもらいたいというような提言ができるかもしれない。私は3つ挙げたんですけれども。このように議論を続けて、最後に私たち全体の意見としてまとめて行きたいと思います。その他に皆さんからこれも取り上げて欲しいというのがあったら聞いて終わりたいと思いますが。ちょっとこれも思い出したっていうのがありましたら。

(委員5) 病後児の保育をやるには何か資格というか、部屋が隔離されていないといけないというか、見ている人は何人に何人とかっていう規定はあるんですか。軽米病院が駄目だっていう理由もちょっと分からなかったけれども。

(健康福祉課長) 病後児保育だと保健師さんとか看護師さんが入らないとダメなんだよね。そういった資格を持っている人を確保できなかったのです。

(事務局) 看護師1人、保育士1人。どちらも必要ですね。

(委員5) そしたら軽米にはないそういうのを設置するには、ハードルが高いわけですよね。

(健康福祉課長) 軽米、小軽米、晴山保育園とも、そのような発想の下で造っていない。病後児だから当然弱っているお子さんなので、入り口もトイレも別にする。当然部屋もそうなるけれども。要するに同じ所から入って同じ所にいると、弱った病後のお子さんのためにならない。それだと認められないとかできないというような定めがあって、先ほど担当が申したように看護師さんと保育士さんはいなきゃならないということで。入口出口、トイレとか流しとか、そのような関係でそもそも作っていないので。実際どうなんだって言えば、別棟に、さっきの大船渡市さんのように建物を建ててやるのも、それも上手くやれるかちょっと自信がなくてですね。

(委員13) どこの保育園とかもそうなんです、「吐きました。ノロウイルスです。さあこれは大変。みんなにうつせば大変。」という時も、保育士1人がどこか1つの部屋で、その保育士はうつるのを覚悟でその子を見るという感じで。とにかくお母さんが迎えに来るまでは、どうにもそこにいるという場面が何度かありました。やっぱり感染症にその子がかかっているっていうのが、何となくこれはもうそうだねって分かるので、流行もしているということですね。だから、そういうふうな場面があるからちょっと考えると部屋が1つ空いていれば閉じこもる。閉じこもるといってどこでね、案外やれるかなって。今の施設を考えれば、幼稚園だとホールからそっち側とか、分ければどうにかできそうかな。こっち側に子どもが少ないからこっち側に、どうしてもそれにはやっぱり保育士さんと看護師さん。看護師さんが居て頂かないと常時受け入れますというのがね。突発的な状況なんです。保育園では看護師さんも何も、手配も何もできないので保育士が対応するけど。常時頼みたいようなことになれば、そういうことになってきます。

(副部長) 山本町長は子育て支援日本一を目指して、それをいつも。今回も出ましたから、それがなきゃ日本一になれないよと言ったらやるかもしれませぬね。

(健康福祉課長) 予算の要求で言うてはいるんですけど、私たちの力不足ですね。うまく予算確保ができない。保育園の方を私たちも見ますけど、園長の方が実際予算要求の仕事はやるので、連携を取りながら、意思疎通を取りながら要求はするのですが、何でも100%は無理だと思うのですが、上手く予算化できない。今年は専門職の不足というのが現実の課題ということで。

(副部会長) 発想を変えると、町の担当者の方々も様々な課題を感じていて、あと一步のところでも乗り越えられないというか。

(健康福祉課長) なんとか方法はあると思います。皆さんの声がきちんと届けば可能とは思っています。決して諦めているわけではございません。

(副部会長) 私が言いたかったのは、その努力に対して百人委員会の、それこそ第一の提言がこれですってやったらもしかしたらポッと上げる弾みになったりすれば凄くやったかいがあるんだろうなと思ったところでした。今日は色々な活発な意見があって大変良かったと思います。では会長最後にまとめて下さい。

(部会長) たくさんの意見ありがとうございました。これからまた話し合うことがたくさんあると思うんですけども、今日の意見を参考にまた考えていきたいと思います。今日はありがとうございました。

(健康福祉課担当主幹) 次なんですけど、部会の進め方については今日のような形でフリートークをしながら結論を。次回もそのような形で進めていきたいと思いますが、次回11月あたりを目処にもう1回開いて、12月に中間報告という形で。こういう議論をしていますという発表までしたいというところなので、次の11月の部会の日程について、皆さんからいつ頃が良いかを決めてもらえばいいかなと思います。

(副部会長) 11月17日金曜日の六時半から八時頃までということで。あとは事務局よろしいですか。

(健康福祉課長) 教育委員会は。総務課の方は。はい。ございません。

(副部会長) では1時間40分において大変有意義な話し合いができたと思います。皆さんありがとうございました。次回も良い話し合いをして最後に本当に良い提言ができるようにもっていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(健康福祉課長) それではこれで閉会にさせていただきます。ありがとうございました。